

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	臨床柔道整復学各論IV		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎303
担当教員	梅田 正浩	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
国家試験における柔道整復学各論の必修範囲を中心に柔道整復学の復習を行う						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験にて記述試験を行う 期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:柔道整復学・理論編(南江堂) 参考図書:標準整形外科学(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
講義の内容確認の為、小テストを次回講義で毎回行います 学んだことを定着させるように、配布したプリントの内容を中心に復習しておくこと						
《履修に当たっての留意点》						
講義・勉強は基本的に紙の上の二次元ですが、人体は三次元です。その違いから想像・理解に困難を招きやすくなります。 配布したプリントの内容を中心に復習しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部。顔面部の軟部組織損傷について質問や問題についてこたえられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸部・脊椎の軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎の軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ラウゲ・ハンセンの分類について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	四択問題を通じて再度「柔道整復学・各論」の知識を深める	配布プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・前回講義内容の復習をしておく ・教科書を見直し復習しておく
		各コマにおける授業予定	四択問題を中心に行い、答え合わせと解説を加える		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	四択問題を通じて再度「柔道整復学・各論」の知識を深める	配布プリント	教科書を見直し復習しておく
		各コマにおける授業予定	四択問題を中心に行い、答え合わせと解説を加える		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	四択問題を通じて再度「柔道整復学・各論」の知識を深める	配布プリント	教科書を見直し復習しておく
		各コマにおける授業予定	四択問題を中心に行い、答え合わせと解説を加える		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	「柔道整復学各論」全般を理解し、問題を解けるようになる	配布プリント	教科書を見直し復習しておく
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床柔道整復学各論IV		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎303
担 当 教 員	梅田 正浩	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
国家試験における柔道整復学各論の必修範囲を中心に柔道整復学の復習を行う						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験にて記述試験を行う 期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:柔道整復学・理論編(南江堂) 参考図書:標準整形外科学(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
講義の内容確認の為、小テストを次回講義で毎回行います 学んだことを定着させるように、配布したプリントの内容を中心に復習しておくこと						
《履修に当たっての留意点》						
講義・勉強は基本的に紙の上の二次元ですが、人体は三次元です。その違いから想像・理解に困難を招きやすくなります。 配布したプリントの内容を中心に復習しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節軟部組織損傷を理解することができる。	ガイドランス用資料 ①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
	講義形式	各コマにおける授業予定	股関節軟部組織損傷Ⅰ-鼠径部痛症候群、弾発股(ばね股)、梨状筋症候群			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	股関節軟部組織損傷Ⅱ-ヘルテス病、大腿骨頭すべり症			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	股関節軟部組織損傷Ⅲ-単純性股関節炎、変形性股関節症			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	股関節軟部組織損傷Ⅳ-大腿骨頭壊死症、その他の股関節の軟部組織損傷			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	大腿部軟部組織損傷Ⅰ-大腿部打撲、大腿部の肉ばなれ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。
		各コマにおける授業予定	大腿部軟部組織損傷Ⅱ-大腿部骨化性筋炎		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。
		各コマにおける授業予定	膝関節部軟部組織損傷Ⅰ-発育期の膝関節障害		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。
		各コマにおける授業予定	膝関節部軟部組織損傷Ⅱ-半月板損傷、靭帯損傷、腸脛靭帯炎		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。
		各コマにおける授業予定	膝関節部軟部組織損傷Ⅲ-膝蓋大腿関節障害、膝周囲の関節包、滑液包の異常、変形性膝関節症		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。
		各コマにおける授業予定	下腿部軟部組織損傷Ⅰ-コンパートメント症候群、アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。
		各コマにおける授業予定	下腿部軟部組織損傷Ⅱ-アキレス腱断裂、腓骨筋腱脱臼		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。
		各コマにおける授業予定	下腿部軟部組織損傷Ⅲ-下腿部のスポーツ障害、足関節、足部の捻挫		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節部軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。
		各コマにおける授業予定	足関節部軟部組織損傷Ⅰ-扁平足障害		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節部軟部組織損傷を理解することができる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。
		各コマにおける授業予定	足関節部軟部組織損傷Ⅱ-後足部の有痛性疾患、前足部の有痛性疾患		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	履修した内容の国家試験同等問題が理解できる。	①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。 実技項目については事前に反復練習を行う。
		各コマにおける授業予定	まとめ		